

B 4 (20×20) こだま原稿用紙は再生紙を使用しております。

事実を知ったとき、私は

「地球には水なんてたくさんあるのに、何で

水不足になったのだろう。」

と疑問に思い、そのことについて調べてみ

ました。

確かに地球の表面の七割は水でおおわれて

います。しかし、その大部分が海水で、私た

ちが飲んだり、料理や洗濯などの生活に使

用できる「淡水」はわずか二・五パーセント

しかないのです。しかも、そんな淡水の多く

は氷河や地下深くにあるので、簡単に使うこ

とができないのです。なんと、私たちか今す

ぐに使える水は、地球全体の〇・〇一パーセ

ントしかありません。また、水の供給は雨や

風などの自然現象に大きく左右されてしま

ます。例えば、雨が少ない期間が続いてしま

うと、ダムや貯水量が減り、水をためておく

ことができなくなります。特に、東京のよう

な大きな都市では、水を必要とする人が多

いため、水不足が一度起きてしまうと、その影

郷言は大きくなります。一九六四年の東京オリ
ンピックのときには、国内からだけではなく
海外からも多くの人が東京に集まり、通常よ
りもさらに多くの水が必要とされたことで、
水不足はさらに深刻になつたのです。
オリンピックの渇水は、新しくダムや水路な
どをつくつたおかげで水不足を解決すること
かできました。ダムの建設など、多くの人の
おかげで、また水か使えるようになったので
す。私たちは、普段の生活の中で水を当たり
前のように使っているのです。水のありがたさ
を感じることはあまりないかも知れません。
しかし、このような過去のことを知ること
で、水か使えるのは当たり前のことではない。
と気がつくことかできます。そして、水を大
切に使うように気を付けることもできます。
例えば、歯磨きをするときは水を出しっぱな
しにしない、洗濯はまとめて行う、シャワー
も出す時間を最小限にするなど、水を無駄に
しないために日常の中で注意できることかた

くさんあります。このような小さな工夫をす
るとともに、水が使えているのはたさんの
人のおかげということを忘れずに生活してい
きたいです。

世界には、水をくむために、毎日数時間も
歩かないといけない地域もあります。しかし、
私たちは、蛇口をひねればいつでも水が使える
ます。そのような恵まれた環境にいるからこ
そ、「水はあって当たり前のも」と考えるの
ではなく、「ありがたく使うもの」という意

識をもち、日々の生活の中で水を大切に使っ
ていきたいです。

へ参考文献

高崎哲郎「砂漠に川なかる」東京大渇水を救
た五〇〇日「ガイヤモンド」社出版

一九九六年三月十四日